

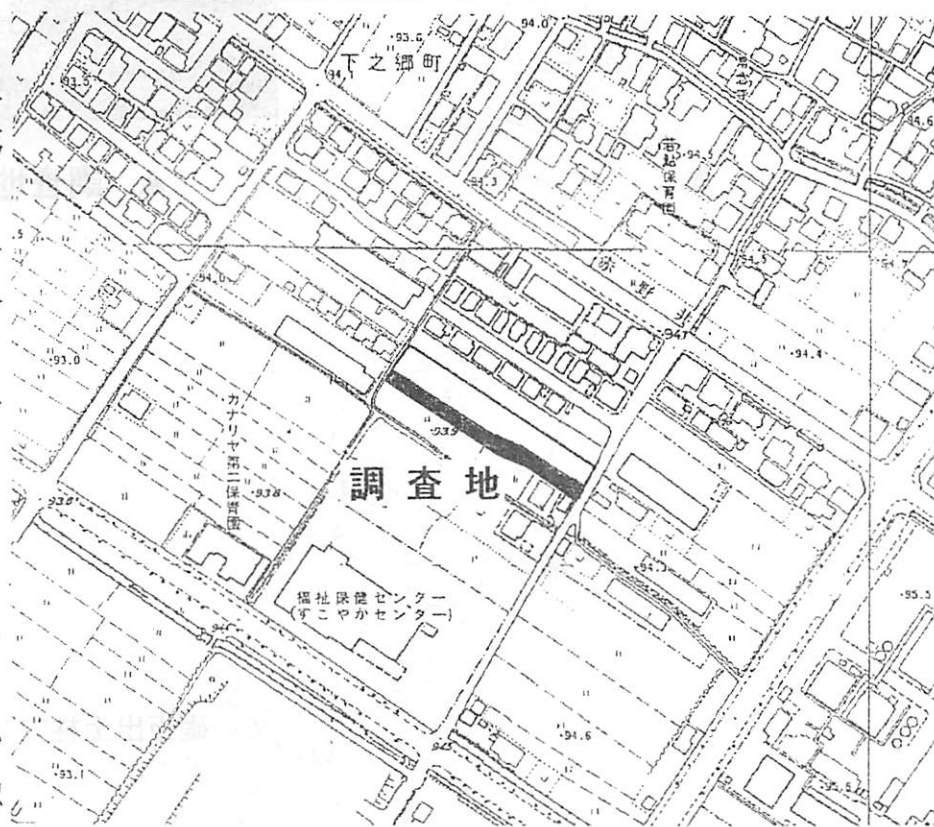
発掘調査だより

1. 下之郷遺跡

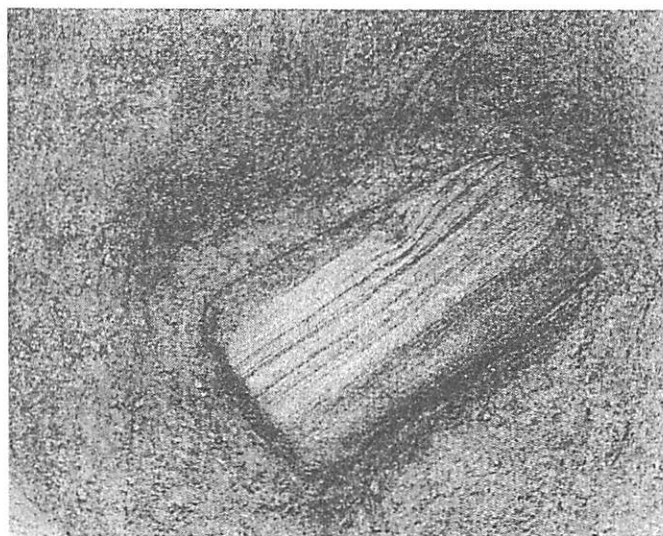
前号で報告させていた
だきました下之郷遺跡第
17次調査は、7月10日
で終了しましたので、そ
の詳細について報告させ
ていただきます。

地表面から約40cm下
で遺構を確認しました。
調査区東側では幅約3
m、深さ約1.5mを測る
鎌倉時代の大溝を確認し
ました。この大溝を境に、
大溝より西側では柱穴や
土坑、溝などが多く確認
できました。柱穴の中には、柱材の
一部が残っているものや、礎板が残
っているものもありましたが、柱穴
の並びから建物跡の復原はできませ
んでした。大溝より西側に遺構が集
中していることから、この溝を境
に西側へ集落が広がっているものと
考えられます。

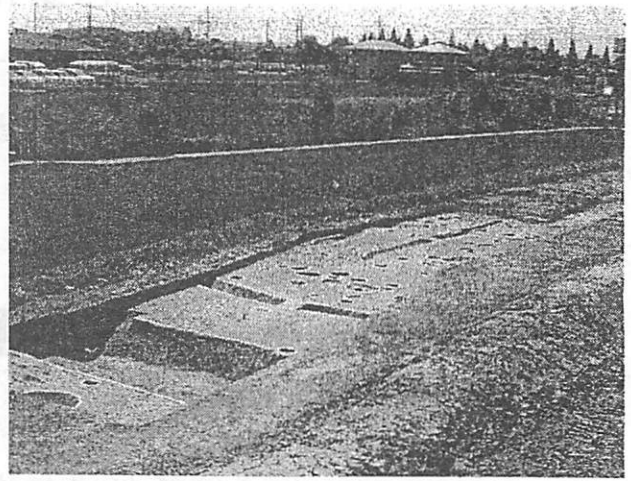
今回の調査では、これまで近隣の
調査で確認されていなかった鎌倉時
代の遺構が確認でき、下之郷遺跡の
新たな土地利用が明らかとなったこ
とは大きな成果であると考えられま
す。
(平井)



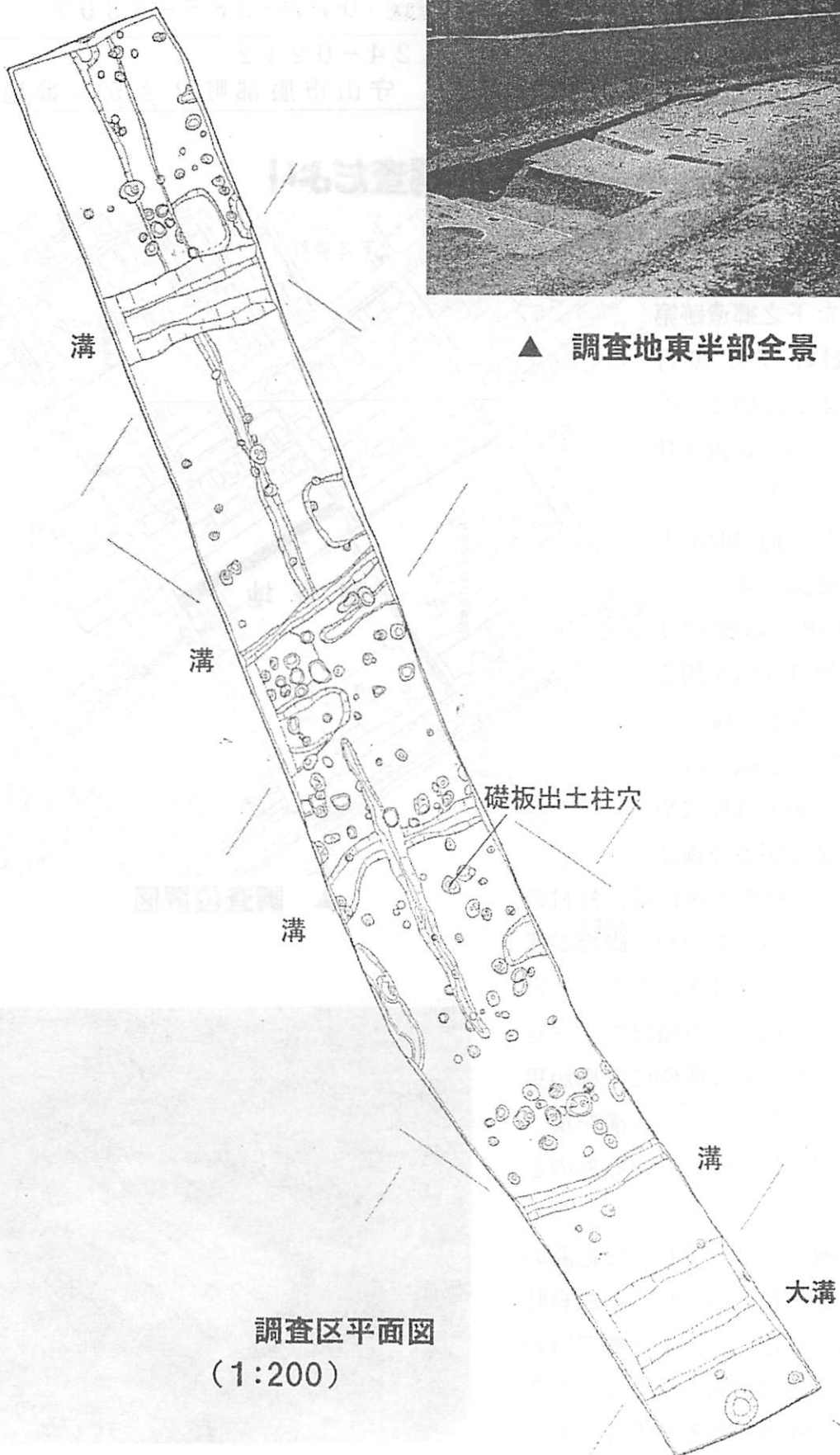
▲ 調査位置図



▲ 礎板出土状況



▲ 調査地東半部全景

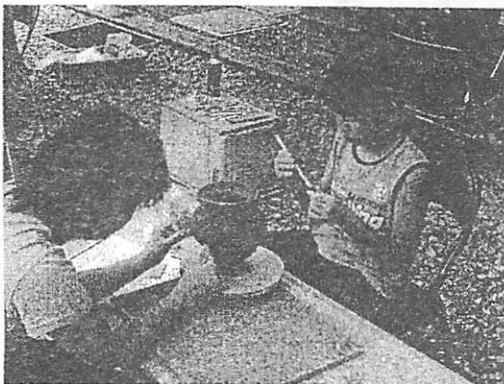


☆ 親子考古学教室の開催 ☆

埋蔵文化財センターでは、夏休みの期間中に親子考古学教室を開催しました。6組の親子、13名が3日間の体験に参加されました。

初日の8月2日は「弥生土器づくりに挑戦」。実物の土器を見ながら粘土を積み上げていくと、時間とともに立派な土器が出来上がり、みなさんすっかり弥生人になったようでした。8月10日の2回目は、「火おこしと古代食体験」を行いました。火おこしは、^{まい}舞き^{ぎほう}技法と呼ばれる棒を^{ひきりいた}火錐板に押しあてて回転させる方法で、ほのかな火がおこると皆さんから歓声があがりました。古代食は各地の遺跡から見つかった古代米のひとつ、赤米と現在の米を混ぜ、センターの横に造ったカマドを使って炊き、さらにシジミ汁の試食も行いました。3回目の8月24日では、湖西の高島辺りで採れる粘板岩、通称、^と高島石^{ねんばんがん}を使って「石包丁づくりと穂摘み体験」を行いました。石包丁はそれぞれ思い思いの形のものが出来上がりました。センター内にある田んぼの米は、まだ穂が黄色く実っていなかったものの穂摘み体験ができました。また、この日は先に作った土器でお米を炊き試食もしました。

暑い日の中でありましたが、親子が楽しく触れ合う楽しい3日間となりました。



出来ました！
上手に土器が



火が付くぞ！
よし、もうすぐ



手強いぞ！
石包丁作りは思ったより



穂だけ？
昔の稲刈りは

§ 子ガメが生まれました！ §

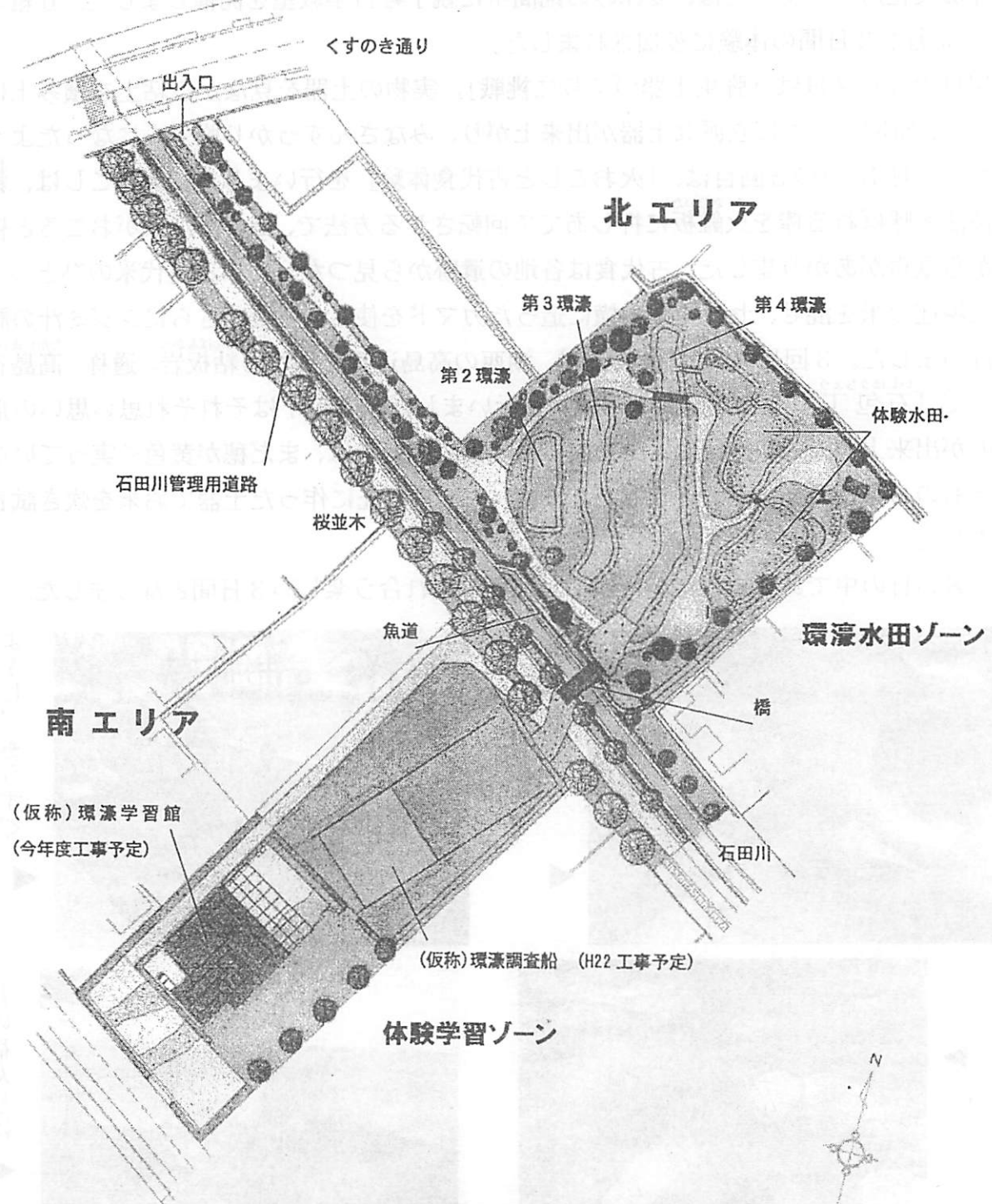
6月、センターの事務所横にカメが産卵し、そろそろかと気にしていましたが、8月20日の朝、子ガメが居るのを発見しました。全長約8cmの子ガメは、甲羅の特徴からゼニガメであることがわかりました。砂の上には2、3箇所の窪みが見られ、数匹誕生したと思われます。

しばらくセンターで観察した後、自然に戻します。



子ガメ

☆ 史跡 下之郷遺跡の整備状況 ☆



下之郷遺跡史跡整備全体計画図

国史跡指定の下之郷遺跡では、平成20年度から22年度までの期間で実施している史跡整備工事で、これまでに石田川の北側(北エリア)で環濠、体験水田、魚道等の修景工事が完了しました。現在は植栽等養生期間としているため、いましばらくお待ち願うことになりますので、よろしくご理解をいただきますようお願いいたします。